あなたもチャレンジ！家庭菜園

土づくりのポイント ～新しい季節に備えましょう～

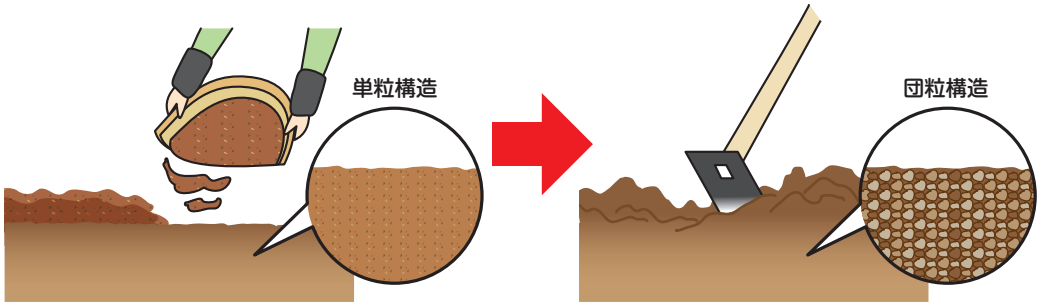
1月は家庭菜園にとって、播種（はしゅ）するものもなくなり、収穫するものも少なくなる季節です。この時期に基本となる土づくりをして、新しい季節に備えましょう。今回は土づくりのポイントと管理の方法をご紹介します。

野菜が大きく育つためには、根がしっかりと伸び、養分や水分などしっかりと吸収できるようにしなくてはなりません。そのためには、**①みずもちがよいこと、②肥料分に富むこと、③水はけがよいこと、④酸度が適正であること、**などがあげられます。

家庭菜園の土は利用回数が多く、作業中に踏み固めたり、雨によって固められ全体に固くなり、空気の流れが悪くなっていきます。また、野菜からの吸収や雨水により石灰分などが失われ、酸状化も進みます。

追肥などするときには表面を鍬（くわ）などで耕し、通気をよくしましょう。

●堆肥などの有機物を入れ耕す



土管理のポイント

野菜を作り続けるうちに畑の地力が低下していき、土壌の酸状化や雑草、病害虫など外からの影響もあって、徐々に生育が悪くなります。よい野菜を育てるためには、土の管理が必要です。

まず畑が空いた冬の間に、苦土石灰をまき（㎡当たり100g）深く耕します。鋤（す）きおこしたあとは、小山を作ったままにし、土を寒気にさらし風化させることが必要です。

営農よろず相談のご案内

「営農よろず相談」では、
・農作物の栽培方法に関すること
・病害虫の防除に関すること
などを中心にご相談を受け付けております。
何かお困りのことがありましたら、身近な相談先としてぜひ一度ご利用ください。

- **電話番号**
  (097)544-6462（むよろず）
  ※通話料は相談者負担となります。おかけ間違いの無いよう、ご注意ください。
- **受付時間**
  月・水・金曜日（祝日は除く）8：30～17：00
  （受付時間以外の時間帯は、留守番電話となります）
- **設置場所**　営農部

栽培について

営農指導員、最寄りの購買店舗職員にお尋ねください。
種・肥料・農薬などの生産資材のお買い求めは最寄りのJA購買店舗をご利用ください。